

リスク説明書(LION CFD 個人のお客様用)対比表

2024年6月3日

(青字部分は追加、青字部分は削除箇所)

現 行	変 更 後
<p><書面のヘッダー部分> ヒロセ通商株式会社 登録番号: 第一種金融商品取引業 近畿財務局長(金商)第41号 加入協会: 日本証券業協会 一般社団法人金融先物取引業協会(会員番号 1562)</p>	<p><書面のヘッダー部分> ヒロセ通商株式会社 登録番号: 第一種金融商品取引業 近畿財務局長(金商)第41号 許可 : 商品先物取引業 農林水産省 経済産業省 加入協会: 日本証券業協会 一般社団法人金融先物取引業協会(会員番号 1562) 日本商品先物取引協会</p>
<p><書面の名称> リスク説明書(LION CFD個人のお客様用)</p>	<p><書面の名称> リスク説明書(LION CFD(証券)個人のお客様用)</p>
<p>当社は、金融商品取引法が定める金融商品取引業者として同法の適用を受けます。また、当社は、金融サービスの提供に関する法律が定める金融商品販売業者として同法の適用を受けます。本説明書は、金融商品取引法及び金融サービスの提供に関する法律の規定に基づき、お客様に店頭CFD取引(以下、「本取引」といいます。)に関連するリスクについての情報を提供するものですので、本説明書を熟読して内容をご理解いただいたうえで口座開設のお申込みを行ってください。</p> <p>本取引は、元本が保証されている取引ではなく、原資産の価格の変動、外国為替市場や金利の動向によっては、利益が得られることもあります。また、損失を被ることもある取引です。また、想定元本と比較して少額の資金を預託して行う取引であるため、お客様は、大きな利益を得ることもあります。逆に預託された資金の元本を上回る大きな損失を被ることもあります。</p>	<p>当社は、金融商品取引法が定める金融商品取引業者として同法の適用を受けます。また、当社は、金融サービスの提供に関する法律が定める金融商品販売業者として同法の適用を受けます。本説明書は、金融商品取引法及び金融サービスの提供に関する法律の規定に基づき、お客様に店頭証券CFD取引(以下、「本取引」といいます。)に関連するリスクについての情報を提供するものですので、本説明書を熟読して内容をご理解いただいたうえで口座開設のお申込みを行ってください。</p> <p>本取引は、元本が保証されている取引ではなく、原資産の価格の変動、外国為替市場や金利の動向によっては、利益が得られることもあります。また、損失を被ることもある取引です。また、想定元本と比較して少額の資金を預託して行う取引であるため、お客様は、大きな利益を得ることもあります。逆に預託された資金の元本を上回る大きな損失を被ることもあります。</p>
<p>4.権利調整にかかるリスク</p> <p>株価指数、ETFを原資産とするCFD取引において、原資産となる株価指数の構成銘柄の配当金の権利確定日・原資産となるETFの分配金の権利確定日の取引終了時点で建玉を保有していた場合、これらの権利調整額が建玉に発生します。一般に建玉の保有数に応じて、買建玉を保有している場合は権利調整額を受取り、売建玉を保有している場合は権利調整額を支払います。但し、株価指数を原資産とするCFD取引において、原資産となる株価指数自体が配当金を考慮している指数の場合等は、使用するリクィディティプロバイダーによっては、売建玉を保有している場合に権利調整額を受取り、買建玉を保有している場合に権利調整額の支払いとなる場合があります。</p> <p>権利調整額は各国の所得税等を考慮して決定するため、発行会社</p>	<p>4.権利調整にかかるリスク</p> <p>株価指数、ETFを原資産とするCFD取引において、原資産となる株価指数の構成銘柄の配当金の権利確定日・原資産となるETFの分配金の権利確定日の取引終了時点で建玉を保有していた場合、これらの権利調整額が建玉に発生します。一般に建玉の保有数に応じて、買建玉を保有している場合は権利調整額を受取り、売建玉を保有している場合は権利調整額を支払います。但し、株価指数を原資産とするCFD取引において、原資産となる株価指数自体が配当金を考慮している指数の場合等は、使用するリクィディティプロバイダーによっては、売建玉を保有している場合に権利調整額を受取り、買建玉を保有している場合に権利調整額の支払いとなる場合があります。</p> <p>権利調整額は各国の所得税等を考慮して決定するため、発行会社</p>

<p>等が発表している数値と異なる場合があります。権利調整額は当社のリクイディティブプロバイダーより提供された予想配当金・予想分配金相当額を基に当社が決定します。なお、権利調整額は当社の判断により修正する可能性があります。</p> <p>また、原資産のコーポレートアクションの発生によって権利調整額が発生する場合があります。</p>	<p>等が発表している数値と異なる場合があります。権利調整額は当社のリクイディティブプロバイダーより提供された予想配当金・予想分配金相当額を基に当社が決定します。なお、権利調整額は当社の判断により修正する可能性があります。海外市場に上場する有価証券等においては、権利調整に関する情報を適宜入手することができないため、権利落ち日以降に権利調整を預託証拠金において処理する場合があります。この際、権利調整額が差し引かれることにより、不足金やロスカット等が発生する可能性があります。</p> <p>また、原資産のコーポレートアクションの発生によって権利調整額が発生する場合があります。</p>
<p>「レバレッジ」と「スプレッドによるロスカット」</p> <p>(1)「レバレッジ」</p> <p>①最大レバレッジとは、想定元本から比較して、本取引を行うために最低限必要である必要証拠金で算出した最大の倍率をいいます。</p> <p>なお、最大レバレッジの上限は、株価指数関連CFDの場合は10倍となっております。</p> <p><最大レバレッジの算出方法></p> <p>「最大レバレッジ」= 想定元本 (CFDレート×1.1×為替レート×取引数量) ÷ 必要証拠金</p> <p>*「1.1」は必要証拠金を算出するにあたり、当社の株価指数関連CFDの想定元本を計算するための固定のファクターです。</p> <p>例)</p> <p>米国D30の前々営業日の取引終了時のレートを参考にした基準値が31,000ドル、</p> <p>現在のレート31,000ドル、為替レート1ドル=105円のとき、1Lot (0.01倍) 買う場合</p> <p>「想定元本」= 35,805円</p> <p>想定元本 = CFDレート (31,000ドル) × 1.1 × 為替レート (105円) × 取引数量 (0.01倍) = 35,805円</p> <p>「必要証拠金」= 3,600円</p> <p>想定元本に10%を乗じた金額 (100円未満切り上げ)</p> <p>35,805円 × 10% = 3,580.5円</p> <p>100円未満を切り上げて、3,600円</p> <p>「最大レバレッジ」= 9.95倍</p> <p>最大レバレッジ = 想定元本 (35,805円) ÷ 必要証拠金 (3,600円) = 9.95倍</p> <p>②実効レバレッジとは、お客様の口座の有効証拠金からみて、全ての未決済ポジションに対してかかる口座の実効の倍率をいいます。実効レバレッジは、最大、株価指数関連CFDの場合は10倍となつ</p>	<p>「レバレッジ」と「スプレッドによるロスカット」</p> <p>(1)「レバレッジ」</p> <p>①最大レバレッジとは、想定元本から比較して、本取引を行うために最低限必要である必要証拠金で算出した最大の倍率をいいます。</p> <p>なお、最大レバレッジの上限は、株価指数関連CFDの場合は10倍となっております。</p> <p><最大レバレッジの算出方法></p> <p>「最大レバレッジ」= 想定元本 (CFDレート×1.1×為替レート×取引数量) ÷ 必要証拠金</p> <p>*「1.1」は必要証拠金を算出するにあたり、当社の株価指数関連CFDの想定元本を計算するための固定のファクターです。</p> <p>例)</p> <p>米国D30の前々営業日の取引終了時のレートを参考にした基準値が31,000ドル、</p> <p>現在のレート31,000ドル、為替レート1ドル=105円のとき、1Lot (0.01倍) 買う場合</p> <p>「想定元本」= 35,805円</p> <p>想定元本 = CFDレート (31,000ドル) × 1.1 × 為替レート (105円) × 取引数量 (0.01倍) = 35,805円</p> <p>「必要証拠金」= 3,600円</p> <p>想定元本に10%を乗じた金額 (100円未満切り上げ)</p> <p>35,805円 × 10% = 3,580.5円</p> <p>100円未満を切り上げて、3,600円</p> <p>「最大レバレッジ」= 9.95倍</p> <p>最大レバレッジ = 想定元本 (35,805円) ÷ 必要証拠金 (3,600円) = 9.95倍</p> <p>②実効レバレッジとは、お客様の口座の有効証拠金からみて、全ての未決済ポジションに対してかかる口座の実効の倍率をいいます。実効レバレッジは、最大、株価指数関連CFDの場合は10倍となつ</p>

ておりますが、取引数量、預託金等により、お客様ご自身で実効レバレッジを調節することができます。

<実効レバレッジの算出方法>

「実効レバレッジ」= 想定元本 ÷ 有効証拠金

例1) 次の条件で米国D30の31000ドルの買いポジションを為替レート1ドル=105円で1Lot(0.01倍)保有している場合

・預託金が5,000円

・米国D30の売りレートが30,900ドル

「想定元本」= 35,805円

想定元本 = 31,000ドル × 1.1 × 為替レート(105円) × 1Lot(0.01倍)
= 35,805円

「有効証拠金」= 4,895円

評価損益(時価評価) = { 売り(評価レート) - 買い(約定価格) } ×
為替レート(105円) × 1Lot(0.01
倍)

= (30,900ドル - 31,000ドル) × 105円 × 0.01

= -105円

有効証拠金 = 預託金(5,000円) + 評価損益(-105円) =
4,895円

「実効レバレッジ」= 7.31倍

実効レバレッジ = 想定元本(35,805円) ÷ 有効証拠金(4,895円)
= 7.31倍

例2) 例1の預託金が10,000円だった場合

「想定元本」= 35,805円

想定元本 = 31,000ドル × 1.1 × 為替レート(105円) × 1Lot(0.01倍)
= 35,805円

「有効証拠金」= 9,895円

評価損益(時価評価) = { 売り(評価レート) - 買い(約定価格) } ×
為替レート(105円) × 1Lot(0.01倍)

= (30,900ドル - 31,000ドル) × 105円 × 0.01

= -105円

有効証拠金 = 預託金(10,000円) + 評価損益(-105円) =
9,895円

「実効レバレッジ」= 3.62倍

実効レバレッジ = 想定元本(35,805円) ÷ 有効証拠金(9,895円)
= 3.62倍

(2) スプレッドによるロスカット

スプレッドとは、売りレートと買いレートの差のことをいい、お客様は買いレートで買い付け、売りレートで売り付けることができ、通常、買いレートは売りレートより高くなります。お客様が買いレートで買い付けた後、ただちに売りレートで時価評価、または、売りレートで売り付

ておりますが、取引数量、預託証拠金等により、お客様ご自身で実効レバレッジを調節することができます。

<実効レバレッジの算出方法>

「実効レバレッジ」= 想定元本 ÷ 有効証拠金

例1) 次の条件で米国D30の31000ドルの買いポジションを為替レート1ドル=105円で1Lot(0.01倍)保有している場合

・預託証拠金が5,000円

・米国D30の売りレートが30,900ドル

「想定元本」= 35,805円

想定元本 = 31,000ドル × 1.1 × 為替レート(105円) × 1Lot(0.01倍)
= 35,805円

「有効証拠金」= 4,895円

評価損益(時価評価) = { 売り(評価レート) - 買い(約定価格) } ×
為替レート(105円) × 1Lot(0.01
倍)

= (30,900ドル - 31,000ドル) × 105円 × 0.01

= -105円

有効証拠金 = 預託証拠金(5,000円) + 評価損益(-105円) =
4,895円

「実効レバレッジ」= 7.31倍

実効レバレッジ = 想定元本(35,805円) ÷ 有効証拠金(4,895円)
= 7.31倍

例2) 例1の預託証拠金が10,000円だった場合

「想定元本」= 35,805円

想定元本 = 31,000ドル × 1.1 × 為替レート(105円) × 1Lot(0.01倍)
= 35,805円

「有効証拠金」= 9,895円

評価損益(時価評価) = { 売り(評価レート) - 買い(約定価格) } ×
為替レート(105円) × 1Lot(0.01倍)

= (30,900ドル - 31,000ドル) × 105円 × 0.01

= -105円

有効証拠金 = 預託証拠金(10,000円) + 評価損益(-105円)
= 9,895円

「実効レバレッジ」= 3.62倍

実効レバレッジ = 想定元本(35,805円) ÷ 有効証拠金(9,895円)
= 3.62倍

(2) スプレッドによるロスカット

スプレッドとは、売りレートと買いレートの差のことをいい、お客様は買いレートで買い付け、売りレートで売り付けることができ、通常、買いレートは売りレートより高くなります。お客様が買いレートで買い付けた後、ただちに売りレートで時価評価、または、売りレートで売り付

<p>けた後、ただちに買いレートで時価評価を行うため、買い付けた直後または売り付けた直後の評価損益(時価評価)はマイナスとなる可能性が高く、有効証拠金の全額を必要証拠金として、ポジションを保有された場合、買い付け直後または売り付け直後にロスカットとなる可能性があります。</p> <p><ロスカットの基準></p> <p>有効比率が100%未満となった時点</p> <p>有効比率 = 有効証拠金 ÷ 必要証拠金 × 100</p> <p>例) 次の条件で米国D30の買いレートが31,000ドル、為替レートが1ドル=105円のととき、1Lot(0.01倍)買う場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預託金が3,300円 ・米国D30の売りレートが30,997ドル ・1Lotあたりの必要証拠金が3,300円 <p>「必要証拠金」= 3,300円</p> <p>必要証拠金 = 1Lotあたりの必要証拠金(3,300円) × 1Lot = 3,300円</p> <p>「有効証拠金」= 3,300円</p> <p>保有中のポジションがないため、有効証拠金 = 預託金</p> <p>「必要証拠金」が「有効証拠金」の範囲内(同額)であるため、1Lot(×0.1単位)の買い注文が約定</p> <p>「有効証拠金」= 3,296.85円</p> <p>評価損益(時価評価) = {売り(評価レート) - 買い(約定価格)} × 為替レート × 1Lot(×0.1単位)</p> <p>= (30,997ドル - 31,000ドル) × 105円 × 0.01</p> <p>= -3.15円</p> <p>有効証拠金 = 預託金(3,300円) + 評価損益(-3.15円) = 3,296.85円</p> <p>「有効比率」= 99.90% < 100% → ロスカット</p> <p>有効比率 = 有効証拠金(3,296.85円) ÷ 必要証拠金(3,300円) × 100 = 99.90%</p>	<p>けた後、ただちに買いレートで時価評価を行うため、買い付けた直後または売り付けた直後の評価損益(時価評価)はマイナスとなる可能性が高く、有効証拠金の全額を必要証拠金として、ポジションを保有された場合、買い付け直後または売り付け直後にロスカットとなる可能性があります。</p> <p><ロスカットの基準></p> <p>有効比率が100%未満となった時点</p> <p>有効比率 = 有効証拠金 ÷ 必要証拠金 × 100</p> <p>例) 次の条件で米国D30の買いレートが31,000ドル、為替レートが1ドル=105円のととき、1Lot(0.01倍)買う場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預託証拠金が3,300円 ・米国D30の売りレートが30,997ドル ・1Lotあたりの必要証拠金が3,300円 <p>「必要証拠金」= 3,300円</p> <p>必要証拠金 = 1Lotあたりの必要証拠金(3,300円) × 1Lot = 3,300円</p> <p>「有効証拠金」= 3,300円</p> <p>保有中のポジションがないため、有効証拠金 = 預託証拠金</p> <p>「必要証拠金」が「有効証拠金」の範囲内(同額)であるため、1Lot(×0.1単位)の買い注文が約定</p> <p>「有効証拠金」= 3,296.85円</p> <p>評価損益(時価評価) = {売り(評価レート) - 買い(約定価格)} × 為替レート × 1Lot(×0.1単位)</p> <p>= (30,997ドル - 31,000ドル) × 105円 × 0.01</p> <p>= -3.15円</p> <p>有効証拠金 = 預託証拠金(3,300円) + 評価損益(-3.15円) = 3,296.85円</p> <p>「有効比率」= 99.90% < 100% → ロスカット</p> <p>有効比率 = 有効証拠金(3,296.85円) ÷ 必要証拠金(3,300円) × 100 = 99.90%</p>
<p>2023年11月20日現在</p>	<p>2024年6月3日現在</p>